

## 【樹木の部屋】

### イチョウ (イチョウ科イチョウ属 *Ginkgo biloba*)

**和名** ; イチョウ (銀杏、公孫樹、鴨脚)

**別名** ; ギンナン、ギンナンノキ、ギンギョウ

**英名** ; Ginkgo

イチョウ目 落葉性針葉樹 **原産地** ; 中国

**花言葉** ; 長寿、荘厳、鎮魂

**花の色** ;



← 写真－1 イチョウの樹形(街路樹)

撮影日 : 2023 年 6 月 29 日

撮影場所 : 天理市市街にて

撮影者 : M さん



↑ 写真－2 イチョウの小枝と葉

撮影日 : 2023 年 5 月 29 日

撮影場所 : 米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者 : M さん

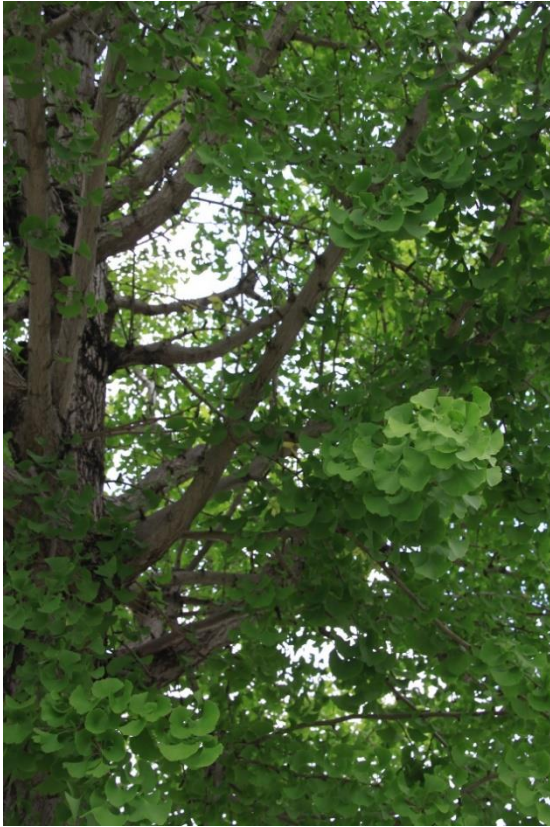


← 写真－3 イチョウの種子(ギンナン)

撮影日 : 2023 年 6 月 29 日

撮影場所 : 天理市市街にて

撮影者 : M さん



← 写真－４ 樹冠内部

撮影日：2023 年 6 月 29 日

撮影場所：天理市市街にて

撮影者：M さん

↓ 写真－５ イチョウの樹肌

撮影日：2023 年 6 月 29 日

撮影場所：天理市市街にて

撮影者：M さん



←↘ 写真－６、７ 気根(左)と老木

撮影日：2023 年 5 月 30 日

撮影場所：米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：M さん



葉が燃えにくく、幹や枝にも耐火性があるため、日本では、「火伏の木」と呼ばれ、街路樹や公園樹として多く利用されています。また樹齢 1000 年を超えることもある長寿の樹で、天然記念物に指定される大木や神社で御神木とされる例も多い樹です。老木になって幹から「気根」が垂れ下がる個体があり、これを女性の乳になぞらえて、乳がよく出るようにと祈願した習慣が各地に残るそうです。

特徴的な広葉を持っていますが裸子植物で

針葉樹です。秋の黄葉や茶碗蒸などに使う銀杏で馴染み深く、漢方や木材用としても栽培されています。世界で最古の現生樹種の一つで、メタセコイアと共に「生きている化石」として国際自然保護連合(IUCN)のレッドリストの絶滅危惧種に指定されています。

根が真っ直ぐ深く伸びるため、地層が深く、排水のよい土地を好みます。葉は扇形で、長枝では互生して葉の先端が深く2つに裂け、短枝では5～6個が束生して不規則に浅く裂けるかほとんど裂けません。秋には美しく黄葉します。

開花期4～5月です。雌雄異株で、葉が展開する4～5月に雌雄それぞれの花が咲きますが、花には花弁などではなくあまり目立ちません。

雄花は短枝に束生し、らせん状につく多数の雄蕊のみからなります。雌花も短枝に束生し、長い柄の先につく2個の胚珠からなり、うち一個がギンナンになります。イチョウは裸子植物であるため、ギンナンはイチョウの実ではなく種子そのものです。悪臭があるのは外種皮という多肉質の部分で、その内部にある硬い殻が中種皮、そして食用にする部分は胚乳と呼ばれます。

枝や幹の成長が早いことが、イチョウの木の特徴です。小さく剪定しても、成長の早さに追い越され、大きくなりすぎる可能性があります。剪定する際は、成長の早さを念頭に樹形を整える必要があります。また、毎年、強い剪定を繰り返すと樹形が不恰好になりやすく、都会で見慣れているコブのある枝ぶりはイチョウ本来の姿ではありません。

剪定は、芽吹く前の2～3月頃、もしくは落葉後の11月頃が適期で、落葉しているために、木全体を見通して剪定できます。また、落葉中は、イチョウが休眠期に入るため、木へのダメージが少なく済みます。木全体を見て、残した枝は根元から切らずに、途中から切り、外側に向いている新しい芽を残すと、樹形が整いやすくなります。

イチョウの木の剪定方法には、以下の3つがあります。

- ・主軸をある程度の高さで切り摘芯(てきしん)、それ以上伸びないようにします。切り落とせばそれ以上成長することはありません。
- ・太い脇枝を切ることで、翌年その先から新芽が出るようにします(切り詰め剪定)。切り詰めるさいは中枝の細い枝を2本ほど残して、次の発芽のときに枝が多くなりやすいように調整します。また、長く伸びた枝や、内側に向いた枝など不要な枝を切り詰めます。
- ・枝や葉が、混み合っている場合、間引くように剪定し、風通しや日当たりを改善します(透かし剪定)。摘芯と切り詰め剪定で、ある程度樹形を整えた翌年から行います。

## < ちょっと一言 >

- ・ギンナンの収穫量が最も多い都道府県は愛知県。中でも稲沢市祖父江町は一大産地として知られ、特に「藤九郎」という品種は、その大きさや食感から人気が高いそうです。ただし、ギンナンの食べ過ぎは中毒を起こすので要注意です。